



# 観る力を育てる



・・・美術科において「みる力」は、きわめて重要な能力である。

・・・

「みる」とは通常「見る」と書く。しかし、いろいろな文字がある。

- 1 **見** る この目で見ること。一般的に「みる」こと。外見を見る，眺めること  
「見学，見物，見識，見て楽しむ，見たとおり」など
- 2 **視** る 感覚器官である眼を働かせて見ること。実際に見て確かめること。  
「視覚，視察，視聴，警視，視診，注視，凝視」など
- 3 **観** る 本質をみてとること。外見ではなくその内にある美，真理，心などの  
価値をみてとること。  
「観察，観劇，観賞，観桜，観音」など
- 4 **鑑** る ものを見て，価値を見分け定めること。  
「鑑賞，鑑定，鑑識，鑑別」：など
- 5 **診** る 病気がないかどうか実際に見て調べること。  
「診察，診断，診療，触診，視診」など
- 6 **看** る 様子や経過などをよく見ること。  
「看護，看守，看板」など



美術の対象は「実在や想像の全宇宙，心の世界，美などの価値の世界」である。それらの全てに自分の全神経を集中して「観る，そこから想像力を働かせる」ことは美術の基本的命題である。「観る力，想像する力，感じ取る力」は一体となっており，美術の学習の原点にこの力の育成を置いていく必要がある。それは「ものの本質をつかむ力，心のありようを豊かにする力」の原動力になるものだからである。

「観る力」を育てるということは，美術に限らず，今後の教育

を 進めていく上できわめて重要なことである。